

ヨコ顔 会員が順次登場します

タケシ&ケイコ

昨年度から折戸川清掃に積極的に参加の若手ご夫妻



タケシさん:職場でも環境・自然共生活動を担当、胴長をつけて会社の池に自ら入ることも。学生時代から趣味の自転車で颯爽と現れ、ゴミを巧みに吊り上げる技はお見事!

「ホタルの会に少しでも役に立てば」と謙虚に折戸川清掃世話人を引き受けてくれました。

ケイコさん:美味しいものから芸術まで好奇心旺盛な大阪育ち、何事も突き詰めるところあり。只今、江戸期の芸術に惹かれ、若冲・芦雪・宗達……話し始めたら止まらない!

愛犬パピヨンも飼い主に似てエレガント。

今、間違いなく注目・期待のお二人です! (昌子)



「新代表に聞く」和正代表

定年退職して前代表の土方さんにホタルの会に入ったら、と勧められ、軽い気持ちで入会、11年が経っていました。

現役時代は自宅と会社の往復で近所の人を知りませんでした。会に入ってから近所の人顔がわかるようになり、ホタルの会を通じて仲間が来ました。我が家の庭でバーベキューをしながら話が弾んで、こんな嬉しいことはありません。代表になってホタルの里を整備し、次の世代の人たちが入ってくれるよう声掛けしていきます。

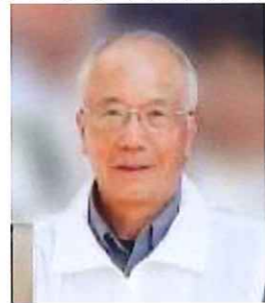


(真砂美)

人生に悔いなし!

2020年3月総会で「折戸川にホタルを飛ばそう会」発足以来16年間務めさせてもらった世話人を降りることになりました。定年と同時に数名の仲間と立ち上げ、無我夢中でホタルを囲んで遊んできました。多くの人に支えられ楽しいひと時をありがとうございました。

今年は折戸川本流には自然発生したゲンジボタル、支流のホタルの里にはゲンジ、ヘイケが乱舞、遂に夢が実現、感無量です。人生に悔いなし!



(土方博)

ホタルだよ!

from 折戸川にホタルを飛ばそう会

(愛知県日進市) 第18号: 2020/8/15(不定期発行)

今年のホタルはいつ、どこに飛んだか?

初ボタルは5月5日、ピークは5月17日から6月6日までの3週間。ホタルの里ではヘイケ、ゲンジボタルが乱舞、6月14日に終了。



- ① 野方橋⇄野方・神明社方面(45)
 - ② アパート前⇄野方橋桜の下(35)
 - ③ 堤防修復工事跡(30)
 - ④ 折戸西橋付近(30)
 - ⑤ ホタルの里(ヘイケ100、ゲンジ100)
 - ⑥ 鎌ヶ寿桜の下⇄アガペクリニック北西(25)
- (カッコ内数字は最も多く飛んだ数) (博&正司)



藤塚用水 (2020.6.8 21:22) 浅井修氏 撮影

応援団(会員)募集中

年会費 1000円

(義務は何も発生しません)

1. ホタル便りをお届けします
2. ホタルが飛んだらお知らせします
3. イベント情報をお知らせします

【連絡先】折戸川にホタルを飛ばそう会

代表: 後藤和正 3fa3u2@bma.biglobe.ne.jp

秋~来年 主な行事予定

09/26	(土)09:00~10:00	ゴミ拾いウォーク	パートナーシップ事業 (ホタルの里集合)
10/25	(日)09:00~10:00	秋の折戸川定期清掃	
11/28	(土)09:00~10:00	ゴミ拾いウォーク	
12/26	(土)09:00~10:00	ゴミ拾いウォーク	
02/27	(土)09:00~10:00	ゴミ拾いウォーク	
03/13	(土)09:00~10:00	ゴミ拾いウォーク	
03/中下旬		幼虫放流会(日程は2月以降にHP参照)	
		(にっしん ESD 事業)	

クイズの答: Q1 ×・Q2 ○・Q3 ○

編集後記

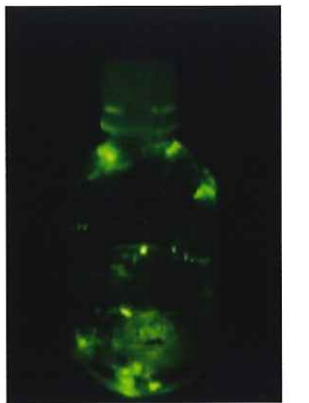
愛知池を横目で見ながら友の会ハウスで窓を開けて、距離をとり、短い時間で編集会議を実施しました。メールやLINEを駆使してお互い連携プレーで盛り上がり、ネタが増えてきて8ページを発刊することになりました。テレワークもやればできます。これは時代の流れだと感じています。みなさまのご意見をお待ちしております。

(編集長 後藤幸雄 e-mail y-gotou@sango.co.jp)
(パソコン編集 飯塚満智子)
(編集委員 博 昌子 正司 真砂美)

仲良しの二人 来年のため



6月1日ホタル観賞会の日に、獅子脅し付近でヘイケの親ボタルを捕っている二人(Ⓢ)がいました。ホタルの会の清彦さんと寺ちゃんです。メス28頭、オス58頭を捕獲。ペットボトル(Ⓢ)に入れたらチカチカ奇麗に輝いていました。清彦さんは足を痛めています。親ボタルを捕る時はしゃがんでスクワットもできるようになります。これは不思議です。



ヘイケボタルはメス1頭が約100個の卵を産みます。幼虫の餌はタニシ、モノアラガイ、カワニナなどの貝類です。また来年もホタルの里で乱舞するように、3月末まで会員の自宅で大切に育てます。(正司)

今年は出来るだけ密を避けて教室ごとの授業、廊下で幼虫・ホタルの観察した後は、教室でバーチャルゴミ拾い。7月1日まで生き伸びてくれたホタルの観察をすることができました。



プラスチックの海洋ゴミが海の生物に害を与えること、マイクロプラスチックがヒトにも深刻な問題であることも、みんな知っている！子供たちだけではできない川のゴミ拾いを想像で一人一個、ゴミ袋の中に書き入れて、日進の川からプラゴミを海に流さないぞ！



南小は折戸川のバーチャルゴミ拾い



南小ホームページより(抜粋)

「ホタル行進曲」からスタートした授業は、自作DVDの視聴や展示物の観察等、盛りだくさんの内容でした。事前学習をしっかりとってきた南っ子たちの目の輝きは素晴らしく、ホタルへの関心の高さが表れていました。質問タイムでも競うように手が挙がり、内容の質の高さに講師の皆さんは感心していました。

「ゲンジボタルの成虫は何も食べない」や「日進市のゲンジボタルは2秒に1回点滅するが、東京では4秒に1回しか点滅しない」など、私自身も大変勉強になりました。

ホタルにとって最大の敵は、幼虫の時に過ごす川の汚れです。そして、川の汚れの多くは、レジ袋等のプラスチックごみです。「一度失ったものは、そう簡単には戻らない」という言葉は、南っ子たちの心を揺さぶりました。今日(7月1日)から始まったレジ袋の有料化も、川などの環境美化に繋がると思います。かつてのように、日進市のあちこちで幻想的な光の舞が見られる日は近いかもしれません。



北小は岩崎川のバーチャルゴミ拾い



北小学校ホームページより(抜粋)

「ホタルに関する自作ビデオ」「ホタルの幼虫成虫やカワニナなどのえさの観察」「ホタルの一生ときれいな川について」など、「ホタルの話」を聞いたり、観察したり、考えたりする1時間の学習です。

ホタルの一生は、1年。成虫になってからは10日間ほどしか生きられない。「折戸川にホタルを飛ばそう会」では、ゲンジボタルとヘイケホタルを飼育していて、ホタルの里に3月末に放流している。「ゲンジボタルは川にいるカワニナしか食べない」「ホタルが生きやすい環境にするためにもゴミを捨てない」など、ホタルの一生や生育環境、『折戸川にホタルを飛ばそう会』の方々の取組等について学ぶことができました。

ようちんも見せてくれてありがとう
うごきました。ホタルのことか
大すきになりました。



♡こどもたちからのお便り

?? ホタル〇×クイズに挑戦!

- Q1 ゲンジボタル・ヘイケボタルの成虫はオスだけ光る
- Q2 ゲンジボタル・ヘイケボタルの幼虫は水中にいる
- Q3 ゲンジボタル・ヘイケボタルの成虫は何も食べず、夜露^{よつゆ}をすするくらいである

答えはP8にあります

コロナ自粛でもできることないかな？

折戸川からプラごみを流さない！



ホタルが教えてくれたこと



私たちも 海洋ゴミ
マイクロプラスチックを
作っている！

HPから「ホターマン・ピカちゃんのゴミ探検」ビデオをご覧ください！



清掃活動で改めてプラスチックごみの多さに驚きました。私たちが拾えるごみはごく一部、拾われないごみは天白川・名古屋港・伊勢湾へ・・・海洋ゴミ問題を子供たちと考えるそんな思いでこのビデオを製作し、小学校に届けました。

ホターマンとピカちゃんが、渡り鳥から聞いた話、プラごみで死んでしまった海の生き物・増え続けるマイクロプラスチック問題から始まり、拾い上げた折戸川のゴミを探検します。弁当の殻・ペットボトル・ビール缶でぎっしりのレジ袋、風で飛んできた畑の肥料袋、ポリ袋に入ったペットの糞も悲しい！捨てないというマナーの普及が一番ですが、拾うという小さな行為も「今出来ること」の一つです。

人気のホターマン・ピカちゃんと身近な川を通して子供たちが環境問題を考えるツールになればと思います。(三郎&昌子)



☆満面の笑み

昨年は近くの保育園児たちと幼虫放流会、ホタル観賞会、出前授業など一緒に遊ぶ機会が多く、顔見知りの子供さんが増えた。今年のホタル観賞では「ぞう組の〇〇です」「パンダ組の××です」と薄暗い中で、白いベストを着たスタッフに名乗りを上げてくれたファミリーが5組もあった。満面の笑顔、何物にも代えがたい。

☆家族の絆

杖を突いたお母さんを特別席(用水が一望できる)に案内したところ、凄く喜んだ。同行した娘さんは感動し、翌日から6日連続ホタルの里へ。ホタル便りを讀んだり、説明を聞いたりして“ベテラン”に成長、うれしいことにホタルの会応援団に入会した。同じ夜、お孫さんに手を引かれた岩崎の幸村さん「今年は凄いなあー」を連発。近くで待つ息子さんの車へ、親子3代のホタル観賞に家族の繋がりをを感じる。

☆ホタルの回覧版



楽しみにしていた子供会のホタル観賞はコロナで中止となり、自宅で羽化させた“親ボタル”を希望者や事情あって、ホタルの里まで出かけられないファンに回覧版。多くのファミリーが楽しみ、素敵なコメントやメールを頂きました。わが家に居ながら蛍が観られるなんて！夜みたらキラキラ星のように光っていました。ほうせき見たい、どんだけ見てもあきません。くさの中のホタルだけ光りませんでした。ホタルの里に行けなかった家庭にまでお届け頂き、恐縮しています。(博&正司)

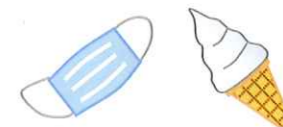


☆爽やか大学生

自転車でやってきたA君、ホタル便りをどうぞ、の声に「ありがとう。僕は南小出身、ホタルが好きで毎年自転車で来ます。大学は東京、でもコロナで行けない。こんな時は蛍がいい」ポケットに手をつ込みコイン1枚をチャリン、実に気持ちよい青年。岐阜の大学生B君「ホタル 愛知」で検索してここを知った。名東区の大学生C子さん誘って来ました。若者たちの憩いの場にもなっている。

☆素晴らしい街に

“マスク持っている人は着用して下さい”の呼びかけ、忘れた女性にスタッフがプレゼント。恐縮したのか近くのコンビニでアイスクリーム、残りのバラ銭を全てワンコイン箱へ。また10年来のホタルファン、見上げるような青年から「こんな素晴らしい街にしてくれてありがとう」のメール、成長ぶりが眩しかった。



➤ 寿司屋の大將

馴染みの寿司屋さん大將から「たくさん飛んでいる」と連絡もらった八事の男性。HPを見ていてそろそろかなあー、と思っていた小牧の女性。大將を囲んでの夕食、ホタル談議に花が咲いた。「4、5年前大雨上がりにホタルの里を覗き、凄く光景に出会った、この感動が忘れられなく毎年来ます。今年は最高」帰り際、ホタル便りを手に「ありがとう」と言いながら揃ってワンコイン箱へ。

➤ 来年は3人で

「このホタルを子供に見せたいなあー」と男性。「これがホタルなのね、なんてきれい！」と頬ずりしながら眺める女性。「子供さんは何歳ですか」と尋ねると「まだいません」と。幼稚園で仕事しています、子供は大好きなのですが、月明りに照らされたホタルブクロを眺めながら「来年は3人で来たいネ」とコイン箱に祈るような仕草。

➤ 子供と社会勉強

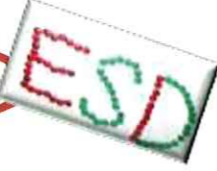
大きなトロッコ？ にたくさんの子供さんを乗せて折戸川堤防をゴロゴロ引いてホタルの里へ。ヤクルト姉さん3人組、旦那さんを加えて10余人。乱舞するホタルに感激、掌に乗せてもらったホタルと一緒に大はしゃぎ。帰り際全員にコインを持たせ「ホタルさんありがとう」「またねー」「来年も頑張るぞ」など、思い思いに大きな声を出してバイバイ！

コイン 813 枚の重み



今年も入り口にワンコイン箱(写真)を設けて、びっくり！ 1円～500円玉まで、合計813枚。1000円札もチラホラ、合計53,935円。ズシリと重く、勇気づけられました。ホタルの里・回遊路安全柵・ロープなどに使わせて頂きました。(博)

「新型コロナウイルス」と向き合って



「幼虫放流会」は中止

今回の「新型コロナウイルス」にはホタル活動も直撃されました。3月中旬に予定されていた環境課主催の「幼虫放流会」が中止に追い込まれ、申し込んだ100名近い園児や先生たちの落胆は大きかった。

緊急事態宣言が全国に拡大される中、5月に入ると初ボタルが舞い、日毎に数が増えましたが、密によるリスクを考えて止むなくホタルの里も閉鎖しようと決定(写真⑤)、看板を立て、HPでお知らせしました。

「ホタル観賞会」実施

幸い5月中旬には緊急事態宣言が順次解除され、5月20日にホタルの里をオープン。今度は3密を避けてのホタル観賞に、【2m】【マスク】大きな看板を用意、カラーコーンとロープで一方通行の措置(写真⑥)をとりました。

6月1日、ホタルが乱舞する中、つつしん ESD 事業「ホタル観賞会(写真中央)」が予定通り実施できたのは幸運だった。環境課の協力と参加者のマナーに感謝したい。事故もなく6月14日、無事終了。厳しい社会的制約の中、ホタルを観ながら折戸川堤防を散歩していた夫婦から「ここは天国です」と微笑みかけられ、疲れは吹っ飛びました。

(正司&博)



ホタル雑感

「ホタル」という言葉の日本語音声(発音)を調べると、古くは火垂(ホタリ)・火照(ホテリ)が「ホタル」に転じたようだ。語源は「篝火のような光を発する虫」のことだそうだ。さらに調べてみると「螢」の文字は、歴史的に見ると、初めて万葉集巻十三に、「ほのか」の枕詞として『螢なす』と表現されて短歌に登場する。

ところで「螢」が最も美しく映えて飛び交う様は、どんな時かご存じだろうか？それは雨の中で光を放って乱舞する姿だ。晴れた日には決して味わうことの出来ない幻想的な感動を覚える。ご覧になった方は 螢の本当の美しさに取りつかれるだろう。

(島津 靖雄)

姉妹クラブ(仲間たち)

ECO35



ECO35のピオトープでは3月26日に飼育幼虫を放流して5月15日に最初のヘイケボタル1頭が出てから6月2日~9日にピークを迎え、5日に最も多い28頭が確認されました。確認数は29回の観測でのべ306頭でした。(7月2日時点)

今後は折戸川のようにホタルが自生して自然発生するように情報交換してピオトープの環境整備を進めていきます。

(Shige)



蒔生まちづくり研究会



夜がすっかり明るくなってしまった都市化の進む蒔生ですが、今も少しだけ天然のヘイケボタルが棲息しています。数年前に一度絶えたゲンジボタルも、折戸の会にご指導いただいて息を吹き返しつつあります。「おうちのそばの素敵なところを次の世代にも」養殖放流や環境整備を学びながら、試行錯誤しています。

(志津香)



長久手みなみ里山クラブ



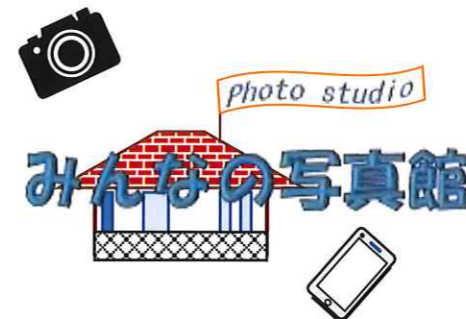
当クラブでは幼虫を自宅で育てる里親制度があります。その中で特別生存率の高い幼稚園があり、現在親カワニナを飼育中です。小屋のカワニナが次から次に死んでしまい、慌てて幼稚園へ見に行きましたら全部元気でした。

この幼稚園は化学製品を使わず、雑木林の中の木造作りです。長久手みなみには生き物に優しい幼稚園があります。

(浩)



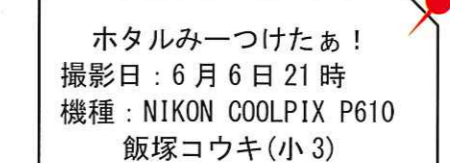
1本桜と北斗七星
撮影日：5月28日
機種：iphone 11
高増正司



ストロベリームーン
撮影日：6月7日
機種：NIKON 83X
竹川政一

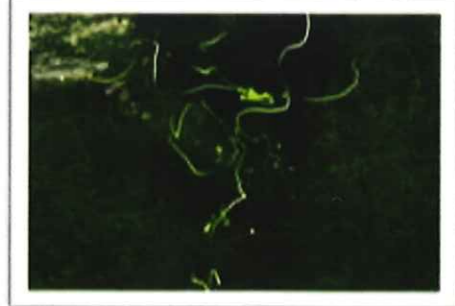


光の会話
撮影日：6月6日21時
機種：CANON 70D
永井美智子



ホタルみつけたあ！
撮影日：6月6日21時
機種：NIKON COOLPIX P610
飯塚コウキ(小3)

医療従事者の家族が自粛2ヶ月後初めての外出、ホタルのやさしい光が子供たちの心に明るく燈った



ホタルの乱舞
撮影日：6月1日
機種：NIKON 750D
若杉正幸